

# 町一丸の産業振興と定住対策に学ぶ

地域活性化特別委員会 委員長 今 元 直 寛

「海士町<sup>あきちょう</sup>」は島根半島から北へ約60km、日本海の隠岐諸島に位置する人口約2,400人の小島である。コンビニもショッピングセンターもない暮らしは便利とは言えないが、この島では島外からの移住者が全人口の一割以上、246人(2012年末)にも達している。平成の大合併では単独町政の道を選択したが、三位一体改革による地方交付税等的大幅削減を受け、町財政は徹底した改革を余儀なくされた。例として、町長以下特別職・一般職及び議員の自発的な給与等のカット。又、町民からは各種補助金の辞退の申し出な

ど、まさに町一丸となって大胆な産業振興と定住策に取り組んで来た。その成果の一端を紹介する。

## 海産物の

### 高鮮度流通

島産の新鮮な魚介類の細胞組織を破壊することなく冷凍し、鮮度の高い状態で首都圏の消費者に届ける「CASシステム」を導入し、「いわがき<sup>はるか</sup>春香」「しろイカ」のブランドで販売している。

## 隠岐牛

これまでは島産の子牛は県外の業者が買い取り、持ち帰った産地で但馬牛・神戸牛・松阪牛などのブランド名で売り出していた。これを「隠岐牛」のブラン



(いわがきの作業所の視察)

ドとして町独自で売り出した。

## 島留学

島前地域で唯一の県立隠岐島前高校は少子化により廃校寸前だった。「高校魅力化プロジェクト」を立ち上げ、高校存続の在り方について検討。存続には島外の子供達を勧誘する選択をし取り組んだ。難関大学進学を目指す「特別進学コース」を新設し、「島留学」と銘打った島外からの募集は評判となり、今では日本中から生徒が集まっている。進学先も国立、私立ともに一流大学におよんでいる。留学生には各種の補助制度を設け、心配された島内の子供達との摩擦も

なく同化している。入学者45人中島外から22人、その内19人が県外(2013年)である。

## Iターンの増加

一流大学卒業者や一流企業でキャリアをもつ「勝ち組」と言われる20~40代の若者のIターン者が多い。単に田舎暮らしに憧れる若者とは違い、島にビジネスを創りに来ている若者が多い。彼等の仲間が仲間を呼び、地元貢献意識を持った若者達が2012年度末で246所帯361人、人口の約15%に達している。

この度の視察で得た貴重なアイデアは、今後の周防大島町政に生かして行きたい。

